東京都

—新風土記—

岩波写真文庫　201

東京都全図

天目山
雲取山
川乗山
仙元峠
小河内
奥多摩湖
三頭山
西多摩郡
青梅市
五日市
福生
昭島市
立川市
北多摩郡
八王子市
南多摩郡
至甲府
中央本線
甲州街道
神奈川県
八高線
埼玉
西武鉄道
東武鉄道
浦和
中仙道
高崎線
越ガ谷
東武鉄道
陸羽街道
京王帝都
小金井市
武蔵野市
府中市
三鷹市
調布市
小田急電鉄
町田市
南部線
東横線
横浜線
川崎
板橋区
練馬区
豊島区
中野区
新宿区
文京区
杉並区
渋谷区
千代田区
中央区
台東区
荒川区
足立区
葛飾区
墨田区
江東区
江戸川区
世田谷区
港区
目黒区
品川区
大田区
多摩川
隅田川
荒川放水路
江戸川
東京湾

記号	凡例
━・━	都境界
═	道路
━	国有鉄道
┿	私有鉄道
▬	市街

0　5　10　15　20km

岩波写真文庫 201 東京都 —新風土記—

編集 岩波書店編集部 名取洋之助
写真 東京都 岩波映画製作所

日本橋

東京は日本の首都であり日本一の大都会であるが、同時に世界的な「巨大都市」でもある。この大都会で生活すると人間は肉体的にも精神的にも子か孫の代で死滅するとまで言われながら、東京都はますます膨脹するばかりだ。昭和三〇年頃までは年間四〇万人以上、現在でも二〇万人以上の増加があるというのだから、すさまじい膨脹ぶりである。それだけに、ここにはあらゆる矛盾と明暗が雑居し、常に新しい問題を提起している。その様相は日本の縮図でもあろう。この小冊子では、主として東京都の自然環境と歴史に照らしながらその複雑な表情を捉えようとした。

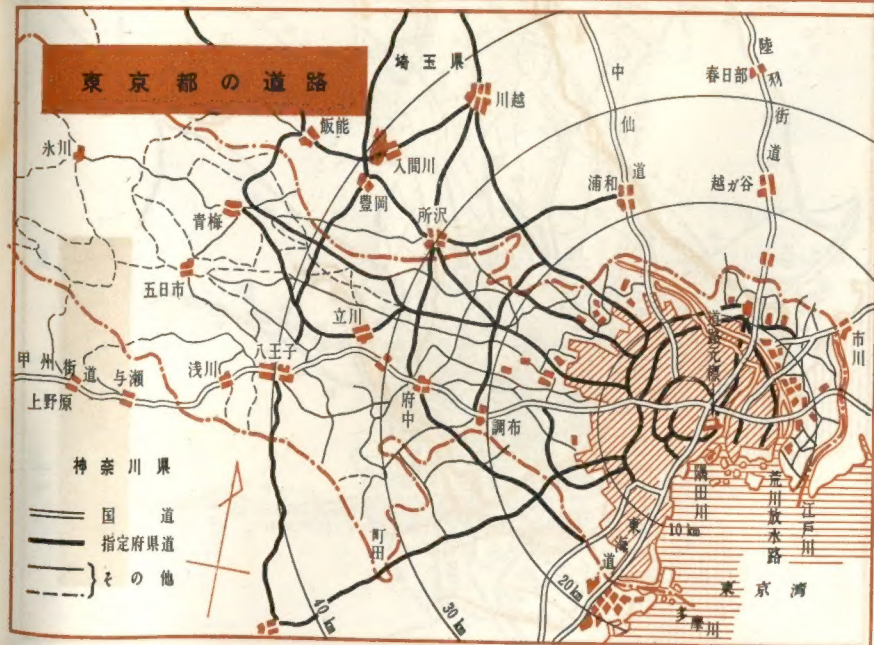
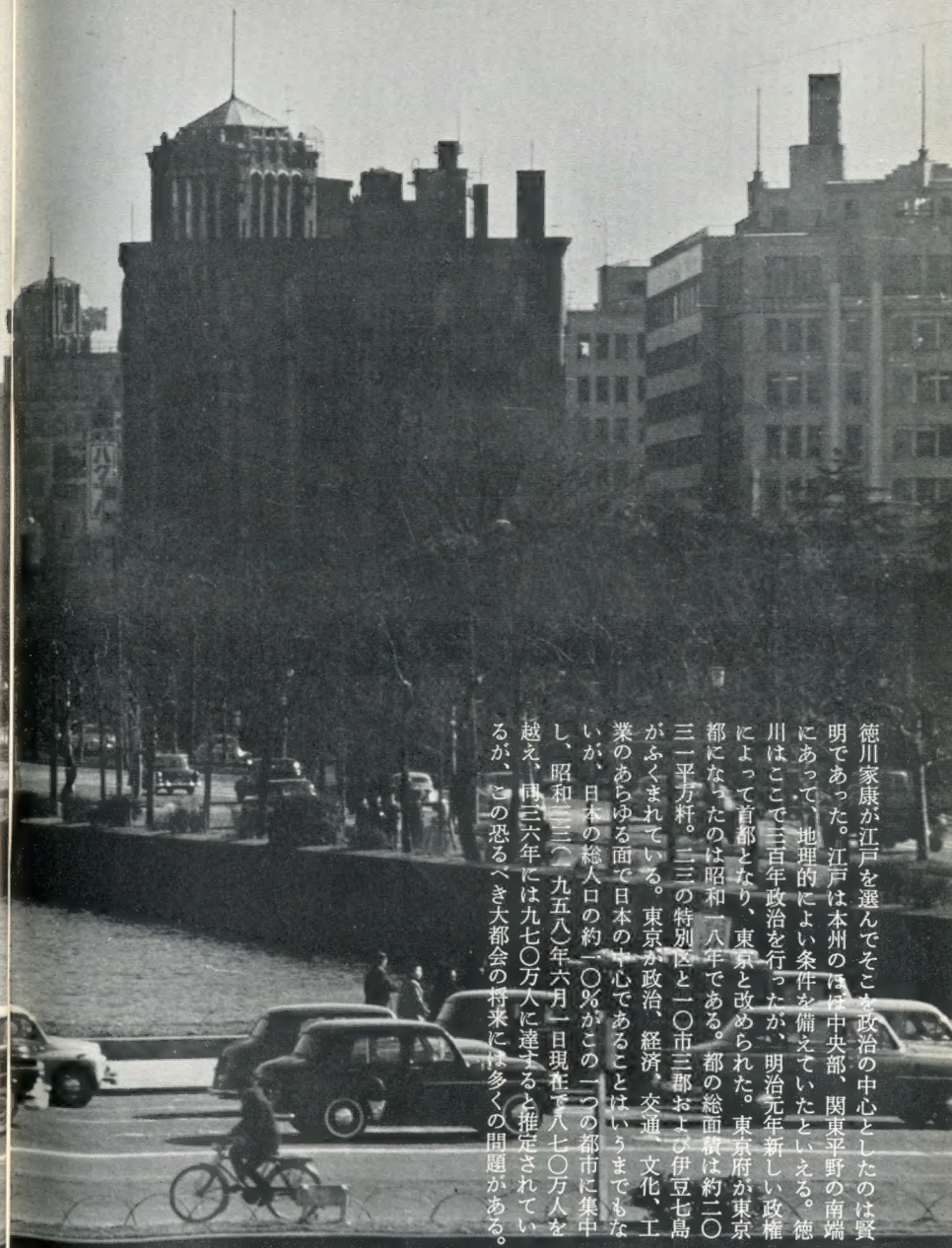
目次

定価100円 1956年9月25日 第1刷発行 1958年12月25日 第2刷発行 © 発行者 岩波雄二郎 印刷者 米屋勇 印刷所 東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社 製本所 永井製本所 発行所 東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3 株式会社岩波書店

東京都の交通

国鉄
私鉄
地下鉄

東京都の道路

国道
指定府県道
その他

徳川家康が江戸を選んでそこを政治の中心としたのは賢明であった。江戸は本州のほぼ中央部、関東平野の南端にあって、地理的によい条件を備えていたといえる。徳川はここで三百年政治を行ったが、明治元年新しい政権によって首都となり、東京と改められた。東京府が東京都になったのは昭和一八年である。都の総面積は約二〇三一平方粁。二三の特別区と一〇市三郡および伊豆七島がふくまれている。東京が政治、経済、交通、文化、工業のあらゆる面で日本の中心であることはいうまでもないが、日本の総人口の約一〇%がこの一つの都市に集中し、昭和三三(一九五八)年六月一日現在で八七〇万人を越え、同三六年には九七〇万人に達すると推定されているが、この恐るべき大都会の将来には多くの問題がある。

東京湾の埋立地．左に隅田川が見える

海岸線

東の江戸川から西の六郷川（多摩川下流）までは四四粁。これが島を除いた東京都の海岸線である。国立博物館にある長禄年間の江戸の地図を見ると、太田道灌が江戸を開いたという長禄元（一四五七）年ころには、日比谷、湯島、浅草あたりも海岸であった。年毎に埋め立てられた地域は整然として、多くは工場地帯に利用されている。東京都民の生活から生まれる塵芥の一日量は、およそ三

お台場　西側からみる

今や陸続きとなりつつあるお台場

工場が並ぶ埋立地

三万貫といわれるが、その八〇％以上が埋立地で処分され、それがまた新たな埋立地材料となる。隅田川河口の勝鬨橋の上からは東京港が一望のうちに見られる。開港されたのは昭和一五年、大東京の海の玄関として、なお拡張工事が進められている。一万トン級の船も自由に横づけになる。

都心を貫く隅田川

東京の河川

多摩川、隅田川、江戸川、中川（古利根川）、この四つの川が西北から流れてきて、東京湾にそそいでいる。これらの川が運んできた土砂は、積り積って、いわゆる下町のデルタ地帯をつくっている。家康が江戸に来たころ（一五九〇年）は、武蔵野にはたくさんの水系が入り乱れて、絶えず洪水が起り、耕地として不適当であった。徳川家が武蔵野の治水工事をさかんに行ったことは、徳川政権の基礎を固めるのに役立ったと同時に、今日の首都の条件を築いたともいえる。たとえば、隅田川と続いていた利根川の主力を東に導き、鹿島灘に放したことなど。今日でも荒川や江戸川の堤防に立って眺めれば、武蔵野の治水工事がいかに大きな問題だったかが理解されるであろう。

荒川放水路

多摩川、神奈川県との境界である

江戸川と荒川にはさまれた葛飾の低湿地帯

小岩付近．江戸川べりの低地

隅田川(左)と荒川放水路

東京の中心

俗にいう「江戸八百八町」がひろがっていたのは下町であった．慶長8年(1603)，江戸に幕府が開かれると同時に，家康は今の浜町から新橋にいたる市街地をつくり，また，日本橋や京橋などの橋をかけ銀座と日本橋あたりにも市街をひらいた．このあたりは今もやはり東京の中心地である．しかし東京都の膨脹はいやが上にも幾つかの大繁華街をつくってゆく．東京の中心という意味も実際には次第にその範囲をひろめてきている．

大森．多摩川デルタは京浜工業地帯の一部

隅田川河口の月島

中川放水路

南より都心を見る

荒川の沖積地．赤羽から下流を見る

上野山下の広小路

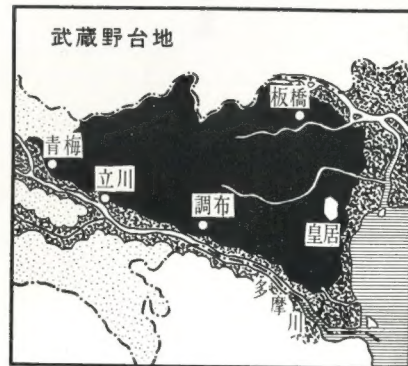
山手

土地の低い下町につづいて、それよりも一段と高い武蔵野台地がひらけている。二三区のなかで住宅地や田園のひろがっている台地区域が、ふつう山手(やまのて)とよばれているが、そこは武蔵野台地の先端部に当っている。富士山の火山灰がつもってできた関東ローム層といわれる山手の赤土は雨には泥となり、風には砂ぼこりとなって都民をなやませたものである。山手台地には谷がよく発達していて

意外に坂が多い。神楽坂、九段坂、三宅坂、道玄坂などは地方の人にもよく知られた名だ。茗荷谷とか牛ヶ淵とかは谷間であるが、このような幾つかの谷をはさんで、上野台、本郷台、駿河台、高輪台、愛宕山などの高台がある。これらの高台は、むかしから学校や寺の多い所だった。

茗荷谷．台岬の上に現われる地下鉄

芝．増上寺境内より飯倉方面の台地を望む

大森駅付近．駅のすぐ裏から台地

多摩川台地(大田区田園調布)

蘆花公園付近(世田谷区)

中野駅前．郊外住宅地の一つ

渋　谷

今の文京区，新宿区，千代田区，港区などは国電山手線の内がわにある住宅地であった．東京市が15区にわかれていた時代には，これらの地域が山手とよばれ広い意味の山手は郊外とよばれていた．都市の発展にともなって郊外はさらに外がわへと押しやられ東京の市域は拡張された．大震災前までは場末にすぎなかった新宿，渋谷，池袋などが今は新しい盛り場となっている．交通機関の発達によって，都心から遠い周辺地区も，通勤者の住宅地として少しも不便ではなくなった．

池　袋

青山一帯，いわゆる山手の中心

新　宿

都内の農地は年々減少している

都心より１時間内外の郊外住宅地，

ここも埋立てられ，やがて家がたつかもしれぬ

郊外住宅地帯を縫う中央線

武　蔵　野

「今の武蔵野は林である．林は実に今の武蔵野の特色といって宜い」と独歩が書いたのは世田谷の辺りから中野，或いは小金井の奥だが，美しい武蔵野の林も年毎に伐り開かれて殺風景な畑に変り，その畑にまた家が建ち，いつしか武蔵野の面影は消えてゆく．同時に「武蔵野」の名も人々の記憶の中だけに残るものとなるようだ．都心から１時間内外の地域はどこも似たようなサラリーマンの住宅地である．都内の10市は彼らの寝室都市といわれている．

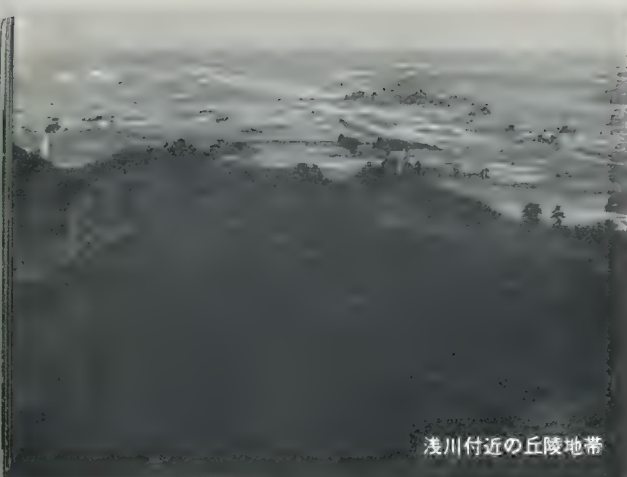
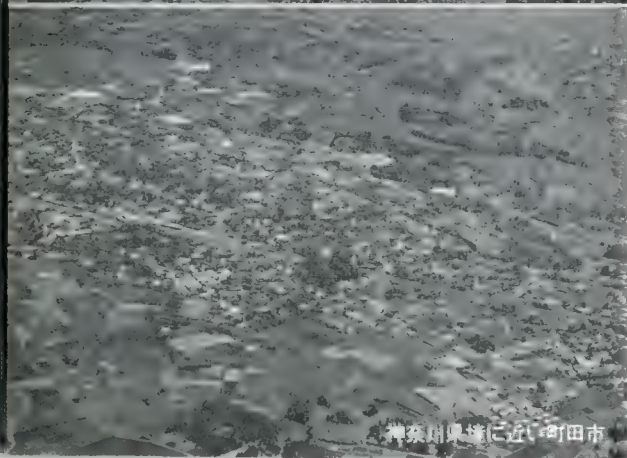
五日市街道

青梅線の沿線

武蔵野市吉祥寺付近

立川市と多摩川

空から見た武蔵野の名残り

丘陵地帯

東京の地形は低い都心から西北に向いだんだん高まってゆき、武蔵野台地の終るあたりから多摩川沿いにゆるい起伏を持った丘陵が続く。丘陵地帯の内部には多摩川の支流の浅川や秋川が入りこんでいる。標高は武蔵野より少し高く、ほぼ二〇〇米以下である。南部の神奈川県から続いているこの丘陵地の北部には立川を中心とする平野が開ける。水に恵まれたこの一帯は田畑が多く、東京の主要農作地帯となっている。埼玉県に近い村山と所沢には、村山、山口の二つの貯水池があり、また玉川上水も近くにある。これらの水源を満たすのは多摩川で、都の水道の水の七〇％をまかなっている。村山貯水池は多摩湖、山口貯水池は狭山湖と名づけられ、行楽地になっている。

多摩川と浅川の合流点　上流より下流を見る

浅川付近の丘陵地帯

都民の水がめ　村山（手前）、山口両貯水池

神奈川県境に近い町田市

五日市町

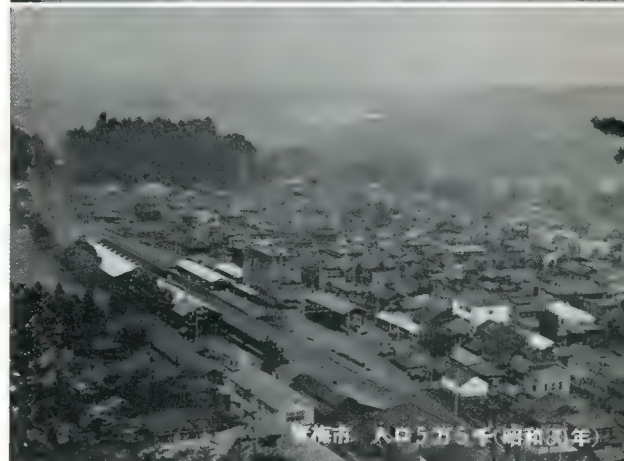
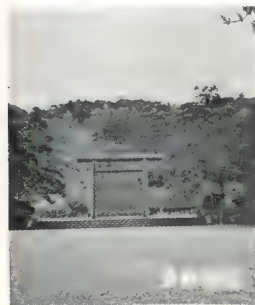
山　麓　の　町

丘陵地から少し西にゆくと青梅，五日市，八王子などがある．これらの市や町の背後には山がせまり，山から流れ出る川が市内を貫いている．また昔は青梅は青梅街道の，五日市は五日市街道の，八王子は甲州街道の宿場であったところから商業の中心地として栄えた．山間の産物は谷ぞいに下り，平地の産物は街道を運ばれてこの山麓の町に集まるので，賑やかな市場が発達したといわれる．しかし鉄道が発達した今では織物，木材などの生産地にかわった．

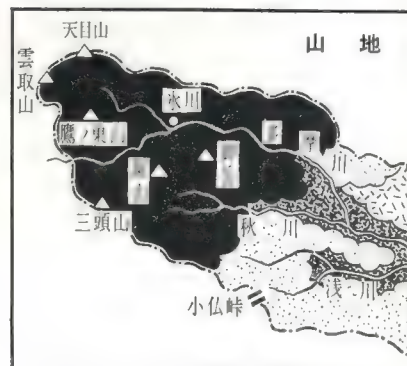
八王子市街，甲州街道沿いの家並

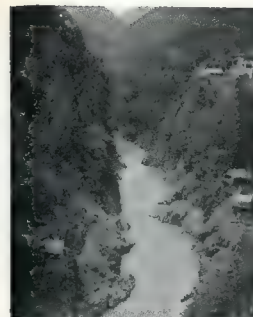
東京，山梨，神奈川県境の山々

山　地

横に細長い東京都の西三分の一は山岳地帯が占める。この山々は関東平野一円をかこむ関東山脈の一部と、埼玉県秩父盆地をかこむ秩父山地の一部である。一番高い山は東京、埼玉、山梨の県境がまじわった地点にある雲取山(二〇一八米)で、東京の西の突端には天目山(一七一八米)が聳えている。その他の山はおおむね一七〇〇米以下だがかなり嶮しい。殊に東の山麓地帯との境は断層によって区切られたものだけに急斜面である。山岳地帯の内部は中央を流れる多摩川とその支流に開析されて美しい渓谷がきざまれている。多摩川の水源に近い上流地域は奥多摩と呼ばれる観光地。付近の奥多摩町氷川はハイカーの基地でもある。この一帯は昭和二五年に国立公園となった。

青梅市西方より西に奥多摩の山々を望む

多摩川上流の中心地　奥多摩町氷川

多摩川　小丹波入口付近

三峰より雲取山を見る

三頭山(1,527米)

多摩川の渓谷，鳩ノ巣付近

青梅線の御岳の西南にある御岳山は遠足の小学生などで賑わう行楽地．ケーブルカーがある．青梅線の終点氷川は奥多摩町の中心．東京都の一番山奥の町である．氷川から更に山深く入ったところに東京都の新らしい水道源，小河内ダムがある．昭和13年に着手された工事は戦争で中断されたが，昭和28年に再開し，昭和32年に完成した．建設のため11の部落が水底に沈んだが，完成による給水量の増加は1日，122万人分にあたる．

日原鍾乳洞

左頁の写真は山と渓谷社提供

氷川付近

山ケーブル

伊豆大島、はるかに富士山が見える

島

東京の島には本土に最も近い大島から海上五五〇粁の鳥島まである。伊豆七島と呼ばれているこの島々は全部海底にのびる富士火山帯の噴火で作られた。一番新しく出来たのが明神礁で、これは南端の鳥島から一六〇粁北にある。大島までは東京から毎日定期船が通じる。東京港―元村港は六時間で連絡がつくが、大島以外の島々は安全な港がないので東京からはもちろん、近くの島との連絡

すらひどく不便である。昔は大島も絶海の孤島であった。源為朝が流されたことは有名だが、その後本土との舟の往来が盛んになるにつれて、流人島はだんだん南に移されたということだ。今日では島は気象観測地として重要な場所である。鳥島には昭和二六年に測候所が新設された。

[illegible] 昭和21年の噴火

[illegible]山より伊豆諸島の眺望

三宅島、牧畜は島の主要な産業

アンコ姿

島の生活はがいして貧しい．火山島なので，地下水がないために作物もあまり育たない．火山の裾野のわずかな畑地に陸稲，甘藷，サトウキビなどを植えているが，主食は殆んど本土からの移入に頼っている．耕地にならぬ所では牛を放牧している．また熔岩でごつごつした海岸には大きい舟がつかず，島の漁民はカヌーを操り，ヤスで魚を捕える．この中では観光地として聞えた大島と，遠洋漁業の根拠地になる八丈島だけが比較的恵まれているようだ．よその土地と切り離された島には古い風習が残っている．

東京の昔

東京の古い歴史を物語る遺跡の中で、いちばんよく知られているのは、大森の貝塚と本郷弥生町の貝塚であろう。大森の貝塚からは縄目模様の縄文式土器や石器骨器などが発掘されて、狩猟時代の東京人の生活が明らかにされ、弥生町からは農耕時代の弥生式土器が発見された。この種の遺蹟や遺物は至るところから発見されているが、南多摩郡町田町の高ヶ坂で発掘された竪穴住居の址もその一つ。日本橋室町から出土した人骨化石、練馬区関町で発見された黒曜石の石器などが、それぞれ八千年前、一万年または数万年前のものと推定されたりしているが、いずれにしろ紀元前から東京地方に人が住んでいて、狩猟、漁猟生活の時代から農耕生活への歴史の道を歩みつづけていたことは確実である。

上野毛古墳

大森貝塚

高ヶ坂石器時代の遺蹟

弥生式土器

武蔵国分寺の五重の塔の址。聖武天皇の勅命により建立

大国魂神社（府中町）

古い記録をみると、関西地方に大和国家が成立した頃は、関東、東北一帯は「東国」または「あずま」とよばれていた。東国地方で勢力のあった豪族たちも、大和朝廷に服し、国造（くにのみやつこ）として領地領民を治めた。日本書紀（七二〇年）には、四—五世紀ころ、東国から大和朝廷へ奴隷や雑役夫を捧げたことが記録されている。

大和の朝廷が中央集権を確立するために府中へ国司を派遣したのは七世紀の半ばころ。そのころから、主として今の埼玉県の大部分と東京都が武蔵国とよばれた。仏教を国の宗教とした奈良朝の朝廷が府中の一角に豪華な国分寺を建ててその勢威を示したのは八世紀の中頃であった。浅草寺の創建もその頃と推定されている。

金竜山浅草寺。観音様で名高い

池上本門寺．鎌倉時代池上氏が自邸を[illegible]し[illegible]

関戸古戦場．この戦の敗北が鎌倉幕府の滅亡を早めた

紀元七九四年、奈良の都は京都へ移された。東京が首都になるまで実に一〇七五年のあいだ、京都は日本の都として栄えた。平安朝時代とよばれる時期に、地方の豪族たちは新地を開墾して荘園をつくり、そこに領民を養って、次第に武士階級という新しい勢力を形成して行った。武蔵の秩父氏も地方豪族の一人であった。

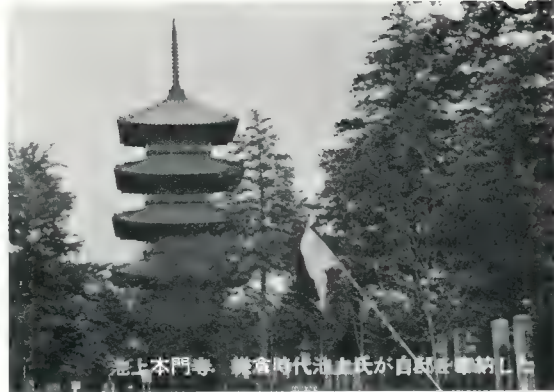
山岳宗教の名残り、御岳山の宿坊

秩父重綱の子、重継は、その頃の江戸という地名をとって江戸氏を名乗り、後の江戸城本丸あたりに館（やかた）を築いた。その子の太郎重長は鎌倉の頼朝に仕え、武蔵国を治めたと伝えられている。鎌倉幕府が開かれたのは一一九二年、そのために武蔵国も活気を呈したが、国司のいた府中は既にさびれかかっていたということだ。

石神井城址．[illegible]

梅若塚．謡曲「隅田川」で名高い．足利時代の話である

高幡不動．南北朝時代の建物（南多摩郡）

滝山城址．16世紀にたてられ[illegible]

一三三三年、鎌倉幕府が亡びてから、政治の中心は、また京都へ移り足利時代を迎えたが、その頃、武蔵国の江戸氏の勢力もおとろえていた。天下泰平になると各地の武将は、元来が地主であっただけに再び農地の開発に力を注いだ。耕地がひろがると人手が不足するので人買い商売が横行した。謡曲「隅田川」の梅若丸は、人買いの犠牲になった少年であった。

戦国時代には、どこの武将も城つくりに心を砕いた。太田道灌は江戸氏を亡ぼして、そこに居城を構えたが、これは古河の足利氏や千葉の千葉氏に対抗するため武蔵に築いた三城の一つだといわれる。江戸城のまわりに城下町を建設し、港を開いて江戸の繁栄をもたらす基礎をつくったが、彼の死後は再びさびれて行った。

道灌堀．今の皇居紅葉山付近

三菱ガ原　左に東京駅の建物（大正初年）

皇居本丸(明治初年)

江戸城

一五九〇年、徳川家康が江戸に入った時は、道灌が死んでから既に一〇〇年も過ぎていた。武蔵野は荒れ果てて、日比谷の入江に小さな漁村があった程度と伝えられている。家康が鎌倉や小田原に目もくれず、江戸に居城をおいたことは人々を驚かせた。一六〇〇年、家康は天下の実権をにぎり、江戸は幕府の所在地となった。江戸城の改造はすこぶる大がかりで、三代将軍家光の代にようやく完成したという。外濠、内濠を二重にめぐらした新しい江戸城の周囲は四里に及んだ。内濠内部の建物は、本丸、西の丸、二の丸、三の丸、紅葉山、吹上御苑などであった。当時の建物は、今は一つも残っていない。江戸城三六城門の中で、今でも原形のおもかげをとどめているのは、半蔵門、平川門(お局門)、桜田門だけである。

二重橋

桜田門

江戸時代の高札場．府中市

家康は日本橋を起点として全国の里程を定めた。甲州、中仙、奥羽、日光、東海の五つの街道の一里毎に立てた道標が一里塚である。今でも板橋区志村に残っているが、これは中仙道の一里塚である。町や村の辻には御布令をはり出す高札があり、その場所は札の辻などとよばれ、今でも地名として残っている所もある。

沢山の旗本をかかえた徳川家のお膝もと、江戸に集まる米は莫大なものだったろう。旗本に分け与える前に一時米をしまっておいたのが郷倉である。浅草蔵前にも昔郷倉があった。旗本に対して諸国の大名も江戸屋敷を持っていたが、大名屋敷の建物では、現在東京大学(元前田邸)の赤門と池田邸の表門が残っているだけだ。

10万石以上の格式をもつ大名門(旧池田邸表門)

品川寺の本尊は，江戸六地蔵の第一番目に当るという

上野寛永寺

上野寛永寺は天海が家光の許しを得て建て、京都御所の鎮護である比叡山に対して東叡山と名づけた。東国の幕府の鎮護の意味であった。上野にたてたのは、上野が江戸城の鬼門に当るからだといわれる。江戸六地蔵は寛永寺創建と同じ寛永年間に、地蔵坊正元という人が願を立て、江戸の六ヵ所に建てて歩いたものという。

江戸時代には陽気な日蓮宗が町人の信心を集めていたというが、中でも日蓮自刻の像と伝えられる帝釈天を本尊とする柴又の帝釈様には、とくに多くの信者が集まったという。講談や芝居などでなじみ深い白井権八や、八百屋お七などが磔（はりつけ）、火炙（ひあぶり）、或は首をさらされた鈴ヶ森の刑場址には今でも供養塔などが残っている。

鈴ヶ森刑場址（大田区大森）

一石橋の迷子標．迷子が出るとここに張出しておいた

幕府の基礎がかたまると江戸の人口は急にふえた。それは寛永年間に人質として大名の妻子在府の制度が出来、参観交代の制度も完成したためである。最初に江戸屋敷をかまえたのは関西の藤堂高虎と奥羽の伊達政宗の二人である。賑やかになった江戸市中には迷子が多かったと見え、所々に立てた迷子標が残っている。

江戸の町はだんだん拡がった。明暦の大火（振袖火事）のあった翌年には川向うの本所・深川に市街が出来て両国橋がかけられた。商業も盛んになった。大正の末まで日本橋小田原町にあった魚市場の起りは、江戸時代に佃島の漁夫が魚を将軍に献上したところ、その余りを売るがよいと許されて日本橋で売ったといわれる。

江戸から東京へ

江戸も享保八(一七二三)年には町の数一六七二町、人口百万を数える当時世界一の都市であった。この江戸が明治元年七月一七日に東京と改称され、戦火にさらされずに新しい政府に受けつがれ、首都としての輝やかしい第一歩をふみ出した。

彰義隊戦士の墓(台東区上野)

明治の初めには新しい事態に処するためさまざまな改革が行われ、諸種の工業が起り、いろいろな設備も急速に整えられ近代化への躍進ぶりはめざましかった。また明治一一(一八七八)年に伊豆七島が静岡県から、同一三年に小笠原諸島が内務省から、同二六(一八九三)年神奈川県の三つの多摩郡か東京府へ移管された。

東京駅が完成するまでは、今日ビジネスセンターといわれる丸ノ内も寂しい三菱ガ原であった。昔丸ノ内は豪壮な屋敷の並ぶ大名小路で江戸っ子の自慢の種であったというが、維新後には住む人もなくなり、資金に困った陸軍省が三菱に譲ったのは明治二二年である。当時一五〇万円でなかなか買手がなかったという話だ。

銀座の煉瓦通(明治5年)

明治五年の大火の直後、時の東京府知事由利公正が市内の家を全部石造りにし、道路には煉瓦を敷きつめることを奨励しはじめた。また銀座の道幅を二四間にすると発表して人々を驚かせた。これには余り広すぎると反対が出たので由利公正がしぶしぶ譲歩したという話がある。結局一二間幅の銀座の煉瓦路が出来上った。

災害

「火事は江戸の華」というが、東京は大火が起るたびに以前より立派に、大きくなって来た。江戸時代には大火に数えられる火事が一〇〇回もあったといわれる。しかし大正一二年の関東大震災で受けた東京の被害は従来のどの火事よりも大きかった。焼けたり倒れたりした家屋三〇万、罹災者一五〇万、これは当時の人口の六割であった。震災後の復興は、その直前まで東京市長であった後藤新平が復興院総裁となって奮闘した。そのため七年目には震災のあとが殆ど分らないほどになった。当時「一丁ロンドン」と呼ばれていた丸ノ内のビル街は無傷であった。

日比谷交叉点（関東大震災当時）

日比谷交叉点（現在）

[illegible]

数寄屋橋の震災記念碑．震災犠牲者の霊を祀ってある

平和の像．同じ台の上にもとは寺内元帥の像があった

靖国神社（千代田区九段）

東京の空襲は昭和一七年の四月に始まる。一九年末までの本土空襲は七六回であったが、二〇年に入ると三月までに既に月平均八三回、四—五月には月平均一一二回と激増した。空襲の被害が震災の被害より大きかったのはいうまでもない。両方の被害を比較すると、罹災面積四倍、建物損害二・五倍、罹災者二倍弱、死者行方不明者三・二倍強である。被害総額一一三億円は、現在の物価に換算すると三兆円以上になるという。被災当時上野の高台に立つと東京港まで見通せたという東京は、戦後一〇年目には人口八〇〇万になり、都心にはビルが林立している。一時さびれていた靖国神社も、最近また大祭を復活して、参拝客もふえて来た。

[illegible]

銀座尾張町（現在）

東京国際空港(大田区羽田)

東京の外人

東京にいる外人の中では韓国人が一番多く、次に中国、アメリカ、イギリス、ドイツという順につづく。日本の独立前までは、アメリカ占領軍が焼跡の東京で目ぼしい建物、競技場、公園その他の設備の大半に「日本人立入禁止」の札をはりつけた。街にはアメリカ兵やイギリス兵をはじめ多くの外国人が溢れて、東京のなかに外国があるような感じであった。外国公館は昔から山手方面に多く、焼け残って以前の場所をそのまま使っているところが多い。外人の中でもフィリッピン、タイ、インドネシヤなどの東洋人は大部分が学生である。彼らの多くは寄宿生活をして勉強しているが、中には希望して都から配給を受け、都民と同じ生活をする人もある。渋谷区には外人向けの日本語学校があるが、生徒の大半は宣教師、留学生もいる。他に専ら留学生を対象とした日本語学校もある。

アメリカ大使館(千代田区虎ノ門)

ソ連大使[illegible]

ホテル

日仏学院

都の観光統計によると1年間に来る外人の総数は20万人である．これは国際観光ホテルの報告によるもので，日帰客を含めると100万人に達する．彼らの落す外貨は年間300億円で都の観光収入のなかで，大きな比重を占めている．帝国ホテルでは客の9割以上が外人だといっている．丸ノ内，銀座辺りには外人商社が多い．殊に日比谷の一劃には外人商社だけでかためたビルや外人客専門のホテルや売店，アメリカ風のドラッグ・ストアなどもあってまるで外人の町といった感じである．

外人商社(中央区銀座)

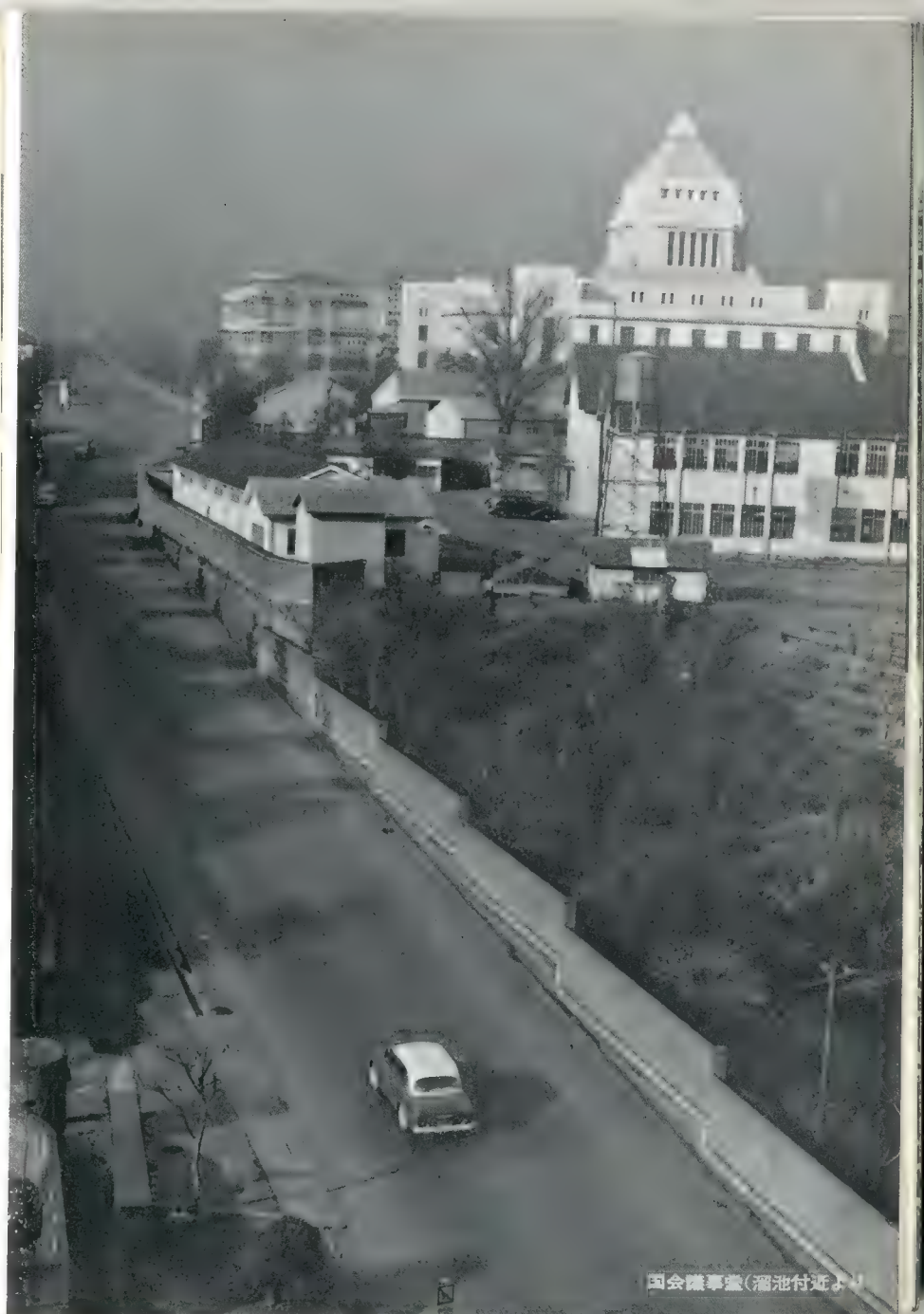
アメリカ[illegible]

国際会議も多い(千代田区[illegible]会館)

官　庁　街

千代田区永田町と霞ヶ関は官庁街である．俗に永田町界隈などといっている．ここには国会議事堂はじめ首相官邸，最高裁判所，法務省，防衛庁，大蔵省，外務省，合同庁舎等々多数の官庁がある．並び立つ官庁ビルは大部分が明治の末から大正，昭和のはじめにかけて出来た建物である．霞ヶ関周辺に計画的な官庁街を建設する案も，都市計画の一環として考えられている．

首相官邸

国会議事堂(溜池付近より)

丸ノ内のビジネス・センター

…朝の丸ノ内

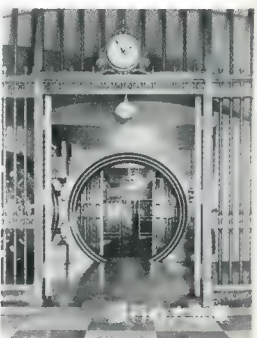
東京証券取引所

経　済　街

永田町に対して丸ノ内，日本橋方面は経済街といえる．ここには日本の大銀行や大会社の本店，本社が軒を並べている．戦前までは重工業は東京，軽工業は大阪といわれて日本経済の半分は大阪にあった．それが戦後は経済の主力が東京に集中していることが目立つ．これは戦時中の統制があらゆる場合に役所の印を必要とした結果ともいわれている．

…田門外より都心を見る

早稲田大学（新宿区）

放送会館（千代田）

文化

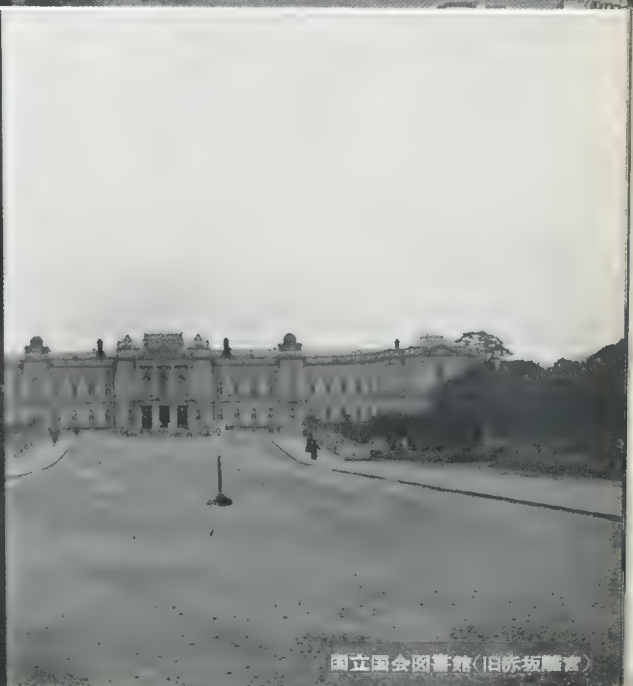
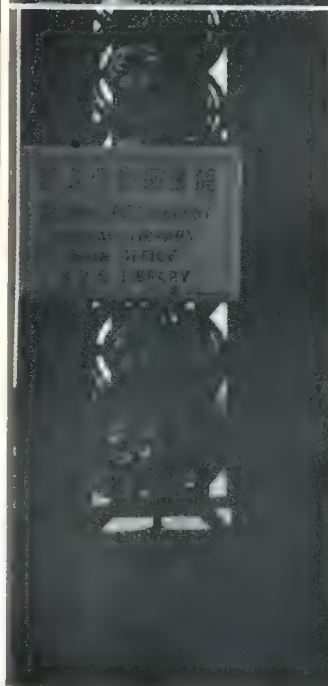
幼稚園から大学まで，およそ2500校．蔵書400万冊の国会図書館を初め大小40の図書館，諸種の博物館，美術館などが都民の利用にまかされている．東京は出版文化の中心でもある．数寄屋橋界隈には大新聞社の建物がならび，神田駿河台を下ったあたりには大小様々な書店が軒をならべている．映画，演劇，ラジオ，テレビジョンでも全国の中心だ．

[illegible]社の[illegible]

神田の書店

国立科学博物館（台東区）

東京国立博物館（台東区上野）

国立国会図書館（旧赤坂離宮）

気象庁(千代田区)

国際電話局 [illegible]約450

上野駅 各線合わせて150本もの列車の始発駅

交 通， 通 信

交通の中心は経済の中心に一致するといわれるが，かつて家康が整備しておいた五街道は，後に東京を中心に全国に鉄道を敷く時大変都合がよかった．東海道線をはじめ現在の鉄道はほぼ旧街道に沿っている．汐留の貨物駅は新橋—横浜間に汽車が開通した明治５年当時の新橋駅で東京駅が出来ると山手線烏森駅が新橋駅に変った．上野駅は東京の裏口といわれる．東京の電話加入は50万近く，国際電報，電話局もおかれている．

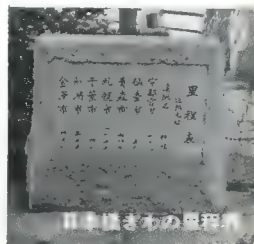
旧幸橋きわの里程標

東京港 昭和15年開港

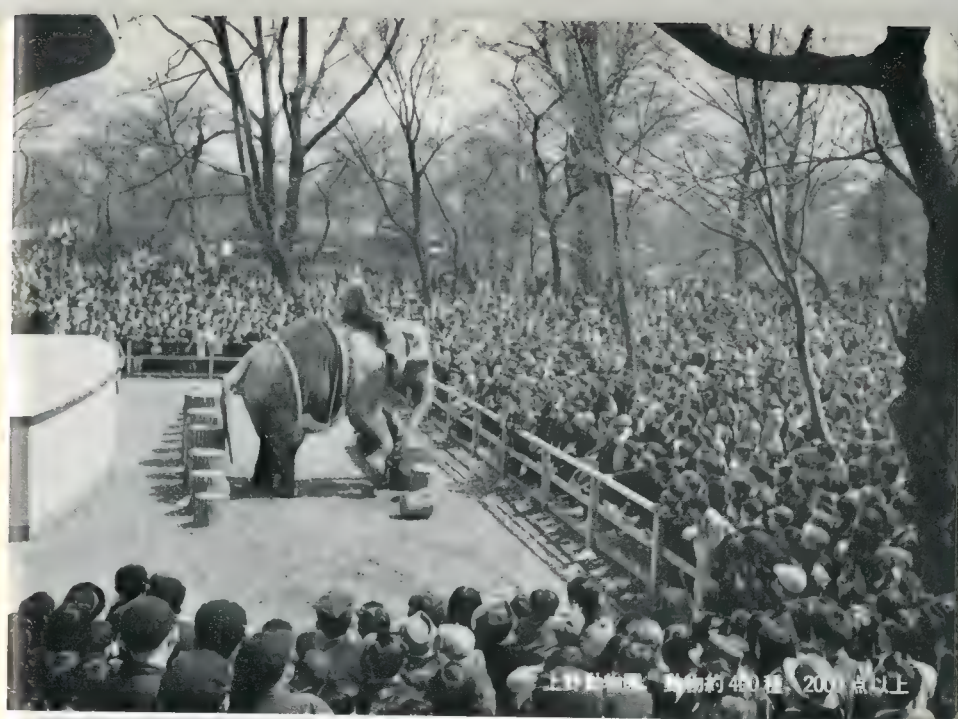
貨物駅 [illegible]

日比谷公園．都内の公園計200以上

歌舞伎

区の興行街

歌舞伎座にて

娯　楽　機　関

東京の洋式公園の先がけは明治36年開園の日比谷公園である．戦後は新宿御苑や浜離宮が国民公園になったので都民の休憩場所もふえた．都内の盛場には至る所に映画館があるが，東京で最初に映画をかけたのは神田錦町の貸席錦輝館．歌舞伎座を予定したところ伝統ある歌舞伎座に活動写真などもってのほかと市川団十郎が反対したといわれる．今は錦輝館はあとかたもない．

上野動物園．動物約450種，2000点以上

後楽園球場．収容人員4万5千

[illegible]山町）

商業

昭和三一年の都商業統計を見ると、東京の商店は約一四万、従業員が六六万人、その販売総額が四兆一千二百億円となっている。売上のうち八七%が一般卸売業者のもので、残りが小売その他のものである。都内の代表的な商業地は銀座、日本橋、浅草などである。卸

[illegible]ショー

商品の[illegible]

売業の中でいわゆる問屋は日本橋から昔の奥州街道に沿って浅草付近まで続く。日本橋の薬屋、紙屋、横山町の雑貨、大伝馬町、小伝馬町の繊維品、蔵前のオモチャ、花川戸からは下駄、鼻緒、靴などの問屋街が、同業で数町ずつかたまっている。この界隈を離れては神田岩本町、神保町や深川にも各種の問屋街がある。

都の商業統計によると都内の百貨店の年間売上は，都内全商店の売上の3％強で月平均80億円余りに達する．日本橋や銀座の目抜き通りにならぶ百貨店の大部分は建坪1万坪以上の豪華なものだ．百貨店の支店や，郊外の百貨店は殆んどがターミナルデパートで池袋，新宿，渋谷など駅の周辺に集中して，郊外に住む購買層を吸い上げようとしている．

おみこしもよく[illegible]（台東区浅草）

[illegible]付近には自動車業者が多い

木の[illegible]店は神田に[illegible]ている

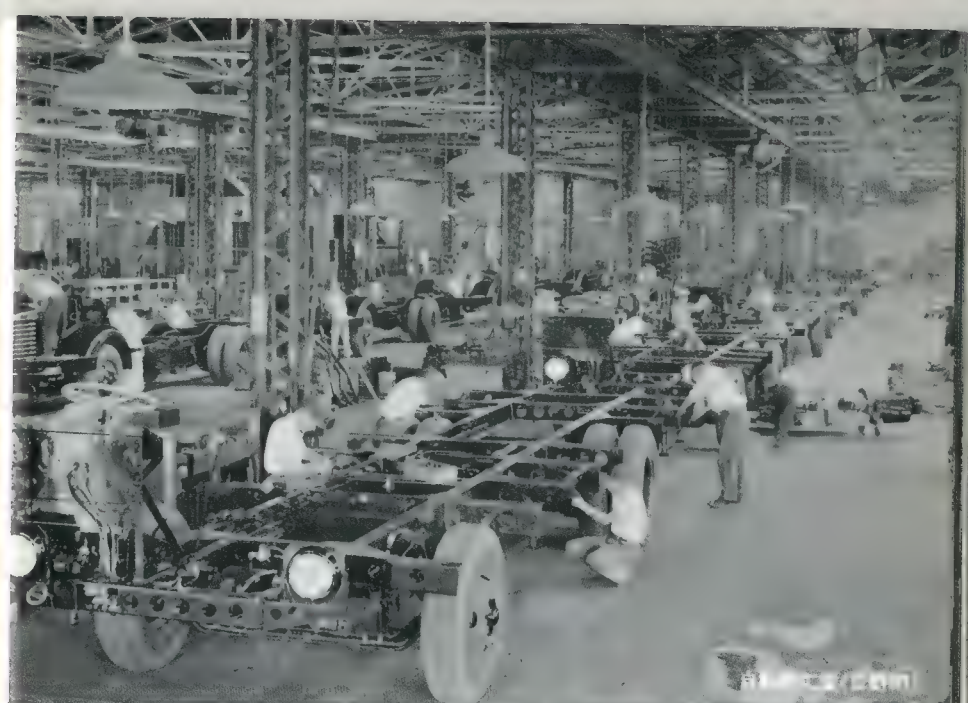
カメラ工場

東京の産業(その1)

消費面ばかり強調されている東京は全国一の生産都市でもある．しかし各種の産業が大小様々なかたちで存在し，地方に見られるように，一つの土地が一つの産業から成り立っているのとは性格が違う．東京の産業で全国的比重を持つのは精密機械，印刷，金属製品等．

製本所

浅草ノリのヒビ(大森海岸)

青果市場

東京の産業(その2)

金魚養殖場(江戸川区)

東京の田畑は少しずつ減って，農業に従う人も少くなって来た．毎年福岡位の市が出来るほど人口が増えつづける東京で，減るのは農家人口ばかりである．4万町歩余りの耕地は田と畑が1対5位の割合となっている．とれる米は，都民に配給すると1週間分足らずという．野菜類は三多摩郡でつくられるが，足りない分は埼玉，千葉などの近県から移入される．東京で全国でも1~2位の生産量を示すものは金魚，花など．海産物では浅草ノリ(今は大森)が有名だ．

キウリ畑(江戸川区)

スイカ

秋野菜

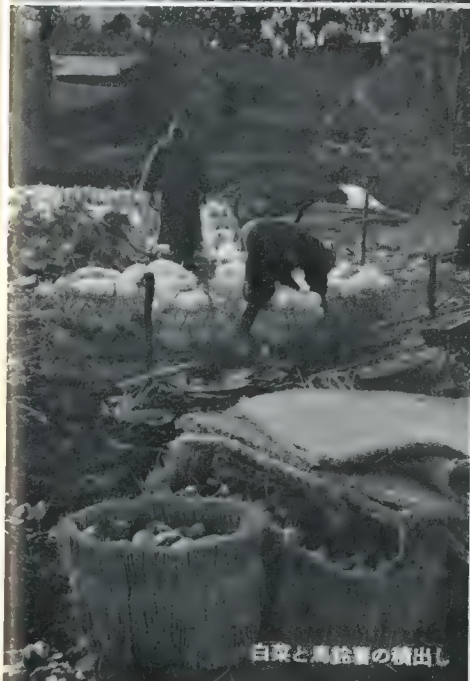
花苗づくり

白菜と馬鈴薯の積出し

[illegible]

印刷工場

洋服工場

[illegible]の作業([illegible])

東京の産業(その3)

都下の林野総面積は都総面積の40％. これに農地を加えた残りの部分に日本の人口の1割が押しこまれていることになる. 三多摩林業は東京という大消費地をひかえ，交通の便にも恵まれて盛んだが，中でも青梅林業の名は古くから知られている. 昔はここで伐採した材木を多摩川に筏で流した. その多摩川の水でさらすと一際美しい色が出るといい，八王子には織物，染色工場が多く，関東織物の主要産地となった. 南の島々では椿油と酪農業が盛んである.

大島牛乳

兎の毛皮は子供の防寒用

捺染工場(青梅市)

同，製品の仕上げ

お墓も満員（小平霊園）

住宅問題

東京は日本一の大都会である。しかし都市としての設備が完全に整っているとはいえない。交通ラッシュ、上下水道の不備、騒音、と多くある中で都民が最も不自由を感ずるのは住宅不足である。戦前最高一二二万五千戸あった住宅が戦災により六一万戸に減ってしまった。しかし一三年後の昭和三三年には一六五万戸に復興し、数だけでは戦前以上となったが、現実には人口が二倍強に増え、折角建てた家も終戦直後のバラック建築が多くて既にこわれかかっているものもあり、現在、都内で約三八万戸の住宅が不足している。一六五万戸のうちには同居世帯一一万、過密住宅二四万世帯、非住宅一万世帯、老朽住宅二万世帯が含まれる。過密住宅とは一戸九畳、一人あたり二畳半未満の広さの家を指し、非住宅というのは、住宅とはいえぬ倉庫や学校等の一隅に住むものを指す。まだまだ家らしい家に住めぬ人が多い。

ラッシュアワー

歩く方が早い

都営アパート

ガスタンク

都営住宅の建築現場

東京の人口が増える勢いには，住宅もまた職場も追いつかない．拡がらぬ土地の上では自動車が交錯して走る．失業都市東京の記録は年々上昇するばかりである．全国の失業人口の8割を占めているといわれ，都内17ヵ所の職業安定所に職を求めて集る人は，毎月求人数の3倍に近い．ニコヨンと呼ばれる日雇労務者のためには，政府と都が失業対策事業を起しているが，彼らの就労日数は昭和30年には月平均20日あまりであった．

まだ残る壊舎

日雇労働者の群

東京都の財政

（1955年度）

歳出 134,988 百万円

その他
教育費
都債費
建築費
都庁費

歳入 134,988 百万円

公営企業財産収入
その他
繰越金
使用料
都債
雑収入
都税
国庫支出金

野菜 1日50万貫

米 1日2万1千俵（配給量）

魚 1日26〜30万貫

肉 1日4万貫

産業別工場従業者数 総数約64万人

3000
2000
1000

数字は産業別工場数（従業者四人以上）

A ガラス・ゴム 石油・紙・皮革 兵器・その他
B 木材
C 化学
D 衣服
E 家具
F 精密機械
G 第一次金属
H 輸送用機械
I 電気器具
J 紡織業
K 食料品
L 機械
M 印刷・出版
N 金属製品工場

神田明神のお祭

出初式 皇居前広場

両国の川開き

大相撲夏場所．蔵前国技館

メーデー．神宮外苑

岩波写真文庫目録

新刊

地中海の史蹟めぐり
280

兵庫県―新風土記―
281

282

*印は品切でございます

東京都の人口

円周は人口の増加状況を示す

西多摩
南多摩
北多摩

転入
大阪
愛知
福岡
宮崎
山口
山形
北海道
群馬
静岡
長野
栃木
福島
茨城
新潟
埼玉
千葉
神奈川
6 5 4 3 2 1 0(万人)

転出
0 1 2 3 4 5 6

昭和40(推定 936万人)

年齢別人口構成
男
女
昭和15
昭和25
昭和20
10(万人) 8 6 4 2
0歳 10 20 30 40 50 60 70 80 90
2 4 6 8 10(万人)

人口密度
(1平方粁当り)
1,000人以下
5,000 〃
10,000 〃
15,000 〃
20,000 〃
20,000人以上
(昭和30年10月の国勢調査による)

京橋から日本橋方面をみる．新しいビルがどんどん建ち，その変貌ぶりはめざましい